

英語検定教科書と学習者のライティングに 出現する語彙について

内田 諭

九州大学言語文化研究院

uchida@flc.kyushu-u.ac.jp



自己紹介

内田 諭（うちだ さとる）

九州大学大学院言語文化研究院・地球社会統合科学府・共創学部：准教授
専門：認知言語学、コーパス言語学、英語教育学

【近著論文】

Uchida, S. and Negishi, M. (2025). Assigning CEFR-J levels to English learners' writing: An approach using lexical metrics and generative AI. *Research Methods in Applied Linguistics*, 4(2), 100199. <https://doi.org/10.1016/j.rmal.2025.100199>



調査の目的

【課題】

中高生の**発信語彙**（スピーキング、ライティングで使える単語）を増強したい

【前提】

英語学習において**インプット**（リーディング、リスニング）の重要性は広く認識されており、発信語彙の習得もそれを通して行われると考えられる

【何を見るか】

- 中高生のインプット（教科書）において、**英単語の習得が十分におきるだけの出現**があるか
- 中高生のアウトプット（ライティング）において、**どのような英単語が使われているか**

調査の方法

- 中高の検定教科書における**英単語の種類・頻度**をコーパスから分析する
→低頻度の語の割合はどの程度か
- 中高生の英語ライティングにおける**英単語の種類・頻度**をコーパスから分析する
→中高生はどのような単語を使っているか

教科書のデータ

【中学校】

- 2025年使用開始の検定教科書6種類×3学年
- 各レッスンの本文のデータ（数字・固有名詞を除く34,462語）

【高校】

- 2016年使用開始の英語コミュニケーション6種類×3学年
- 各レッスンの本文データ（数字・固有名詞を除く90,192語）

ライティングのデータ

【中学校】

- 2025年7月～12月、トピックは教員が指示
- A中学校3年生（数字・固有名詞を除く26,722語：75人平均1.9回提出）

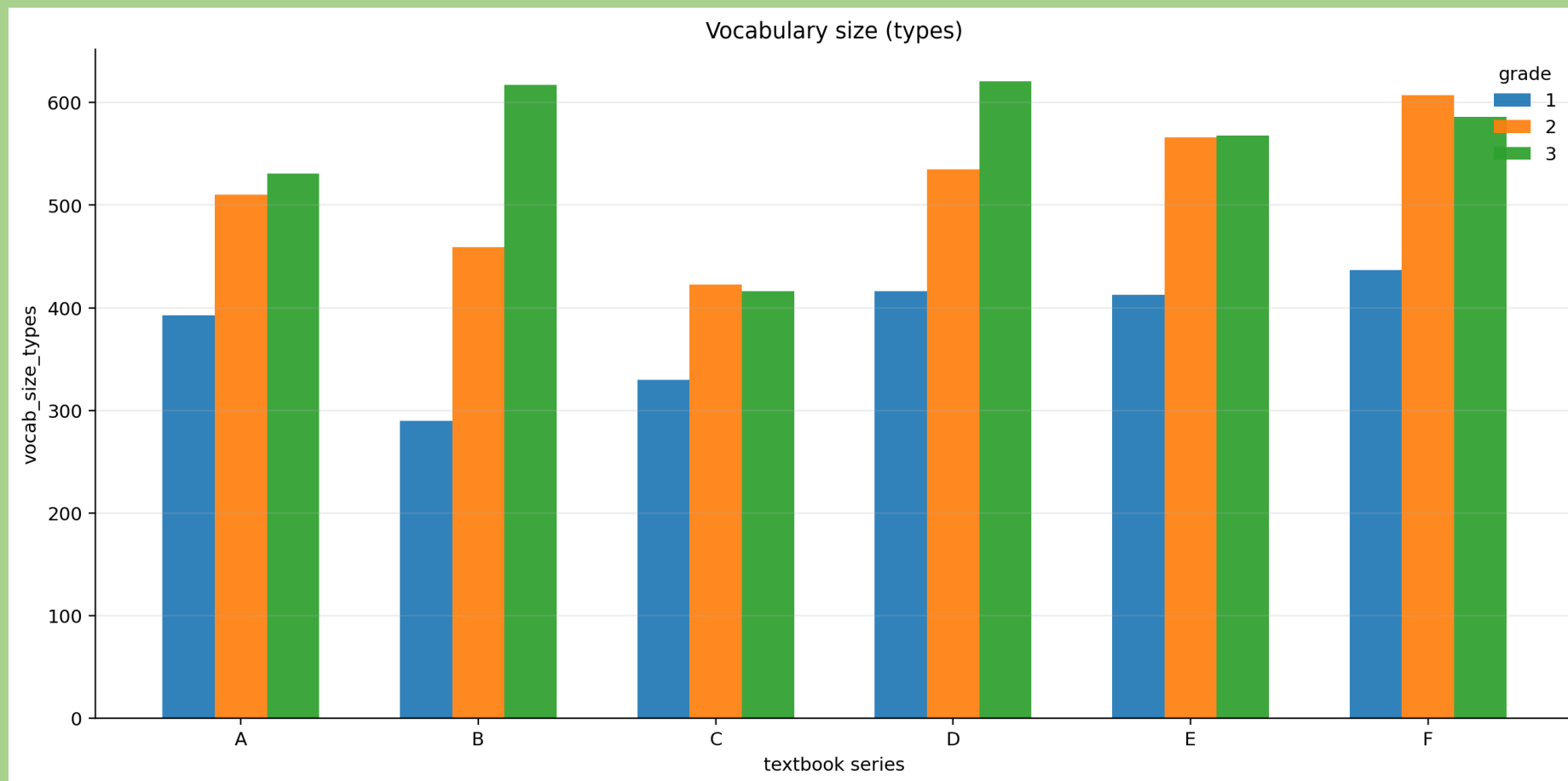
【高校】

- 2025年10月～12月、トピックは教員が指示
- B高校1年生（同96,623語：316人平均3.3回提出）
- B高校2年生（同143,539語：375人平均3.8回提出）

→スペルミスは除外

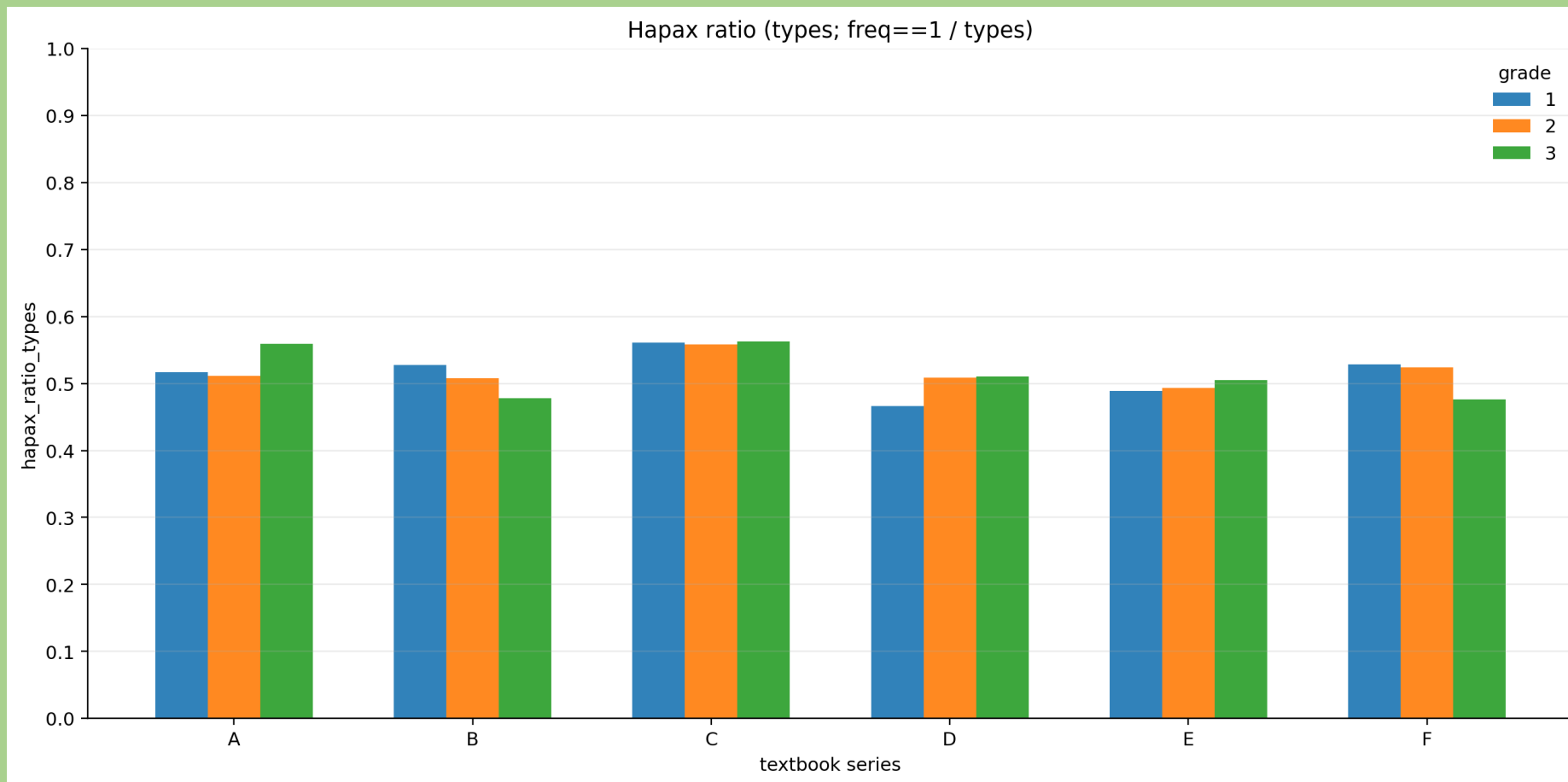
```
beause -> because (freq=1853)↓  
becaase -> because (freq=1853)↓  
becaouse -> because (freq=1853)↓  
becase -> because (freq=1853)↓  
becasue -> because (freq=1853)↓  
becauce -> because (freq=1853)↓  
becaue -> because (freq=1853)↓  
becaus -> because (freq=1853)↓  
becouse -> because (freq=1853)↓  
becuse -> because (freq=1853)↓
```

中学教科書の分析結果：語彙サイズ






































【シリーズ累積】 A社: 979, B社: 920, C社: 779, D社: 1044, E社: 1019, F社: 1057

中学教科書における頻度1の単語の割合



※A~Fはシリーズ名（出版社）を表す

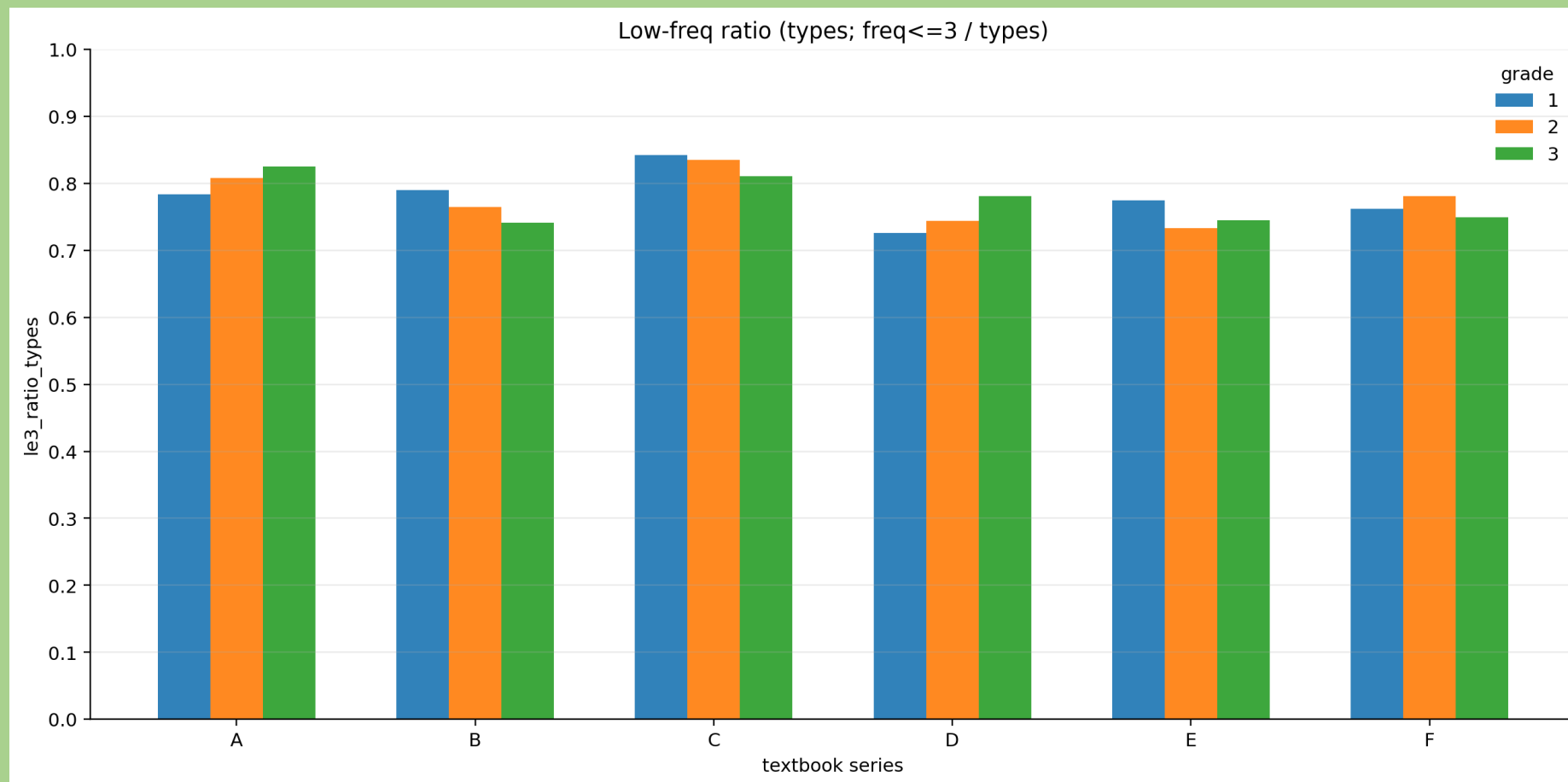
中学教科書における頻度1の単語のCEFRレベル

	A1	A2	B1	B2	#N/A	語数
A	 30%	 29%	 21%	 6%	 15%	452
B	 37%	 27%	 19%	 6%	 11%	422
C	 45%	 28%	 15%	 3%	 10%	368
D	 37%	 26%	 18%	 5%	 15%	483
E	 34%	 29%	 19%	 6%	 12%	465
F	 33%	 28%	 16%	 7%	 15%	477
平均	 36%	 28%	 18%	 5%	 13%	2667

頻度1のA1の単語の例（Aより）：add, ask, between, bird, clean, culture

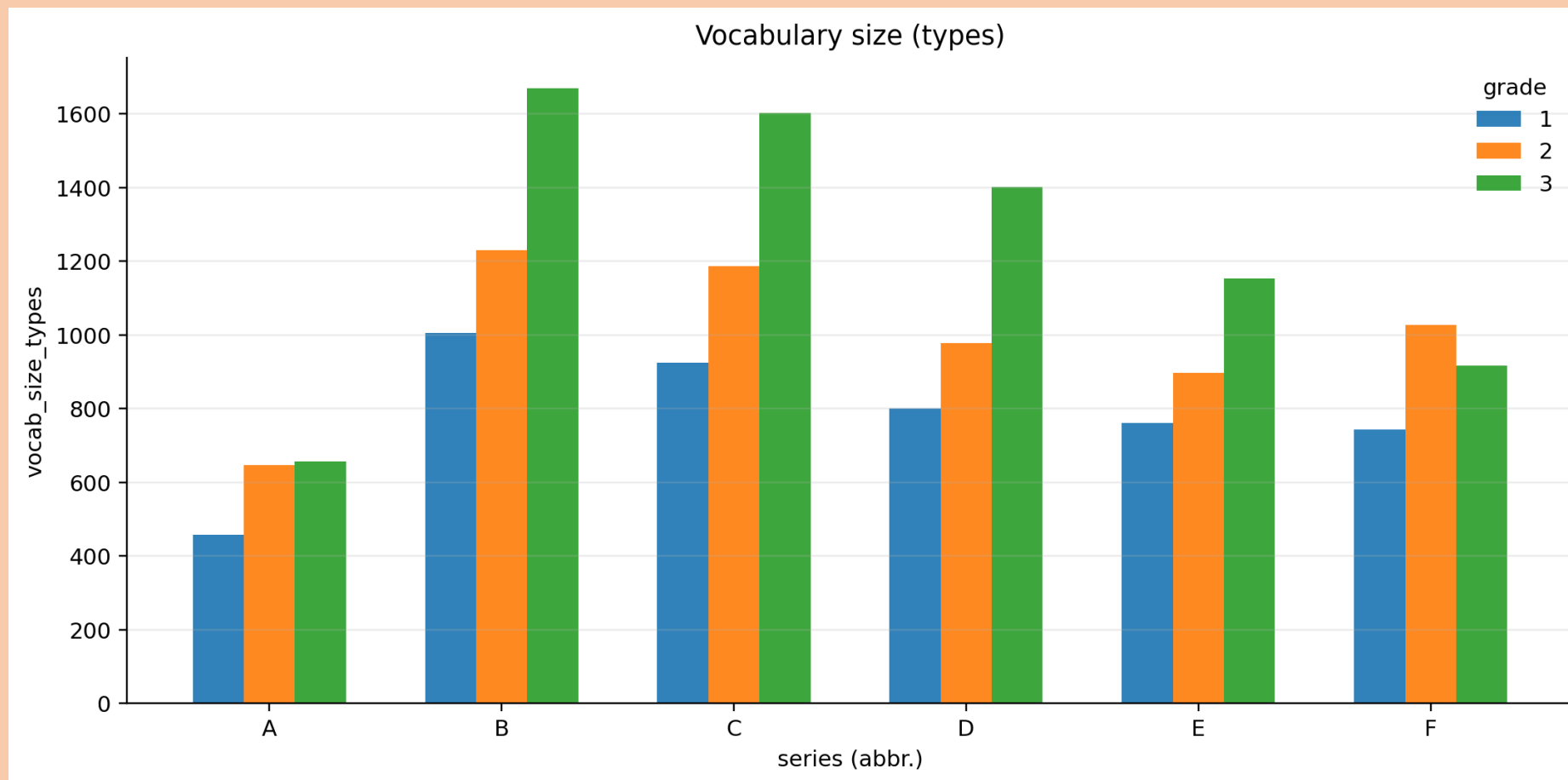
※A~Fはシリーズ名（出版社）を表す

中学教科書における低頻度単語の割合



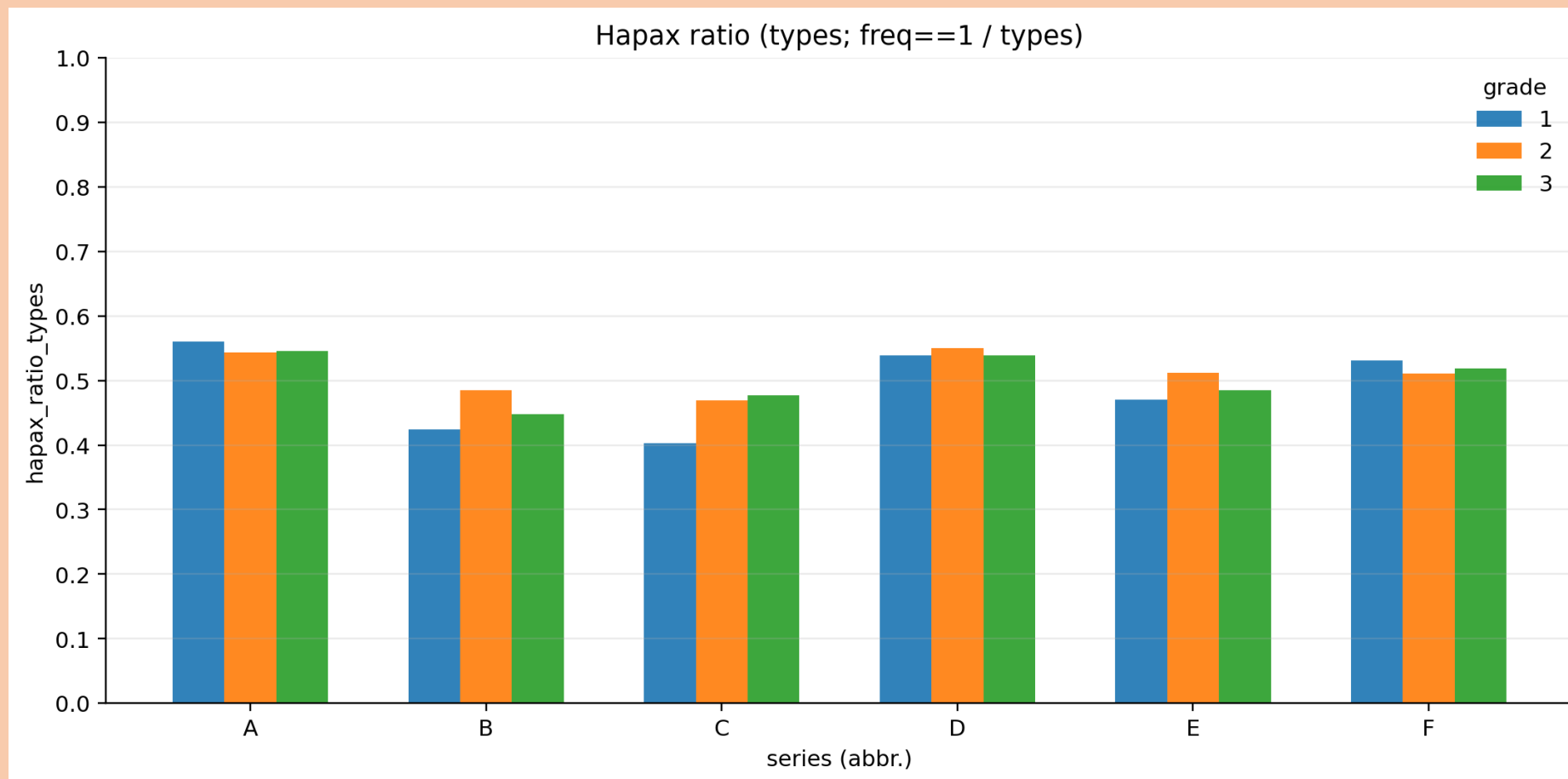
※A~Fはシリーズ名（出版社）を表す

高校教科書の分析結果：語彙サイズ



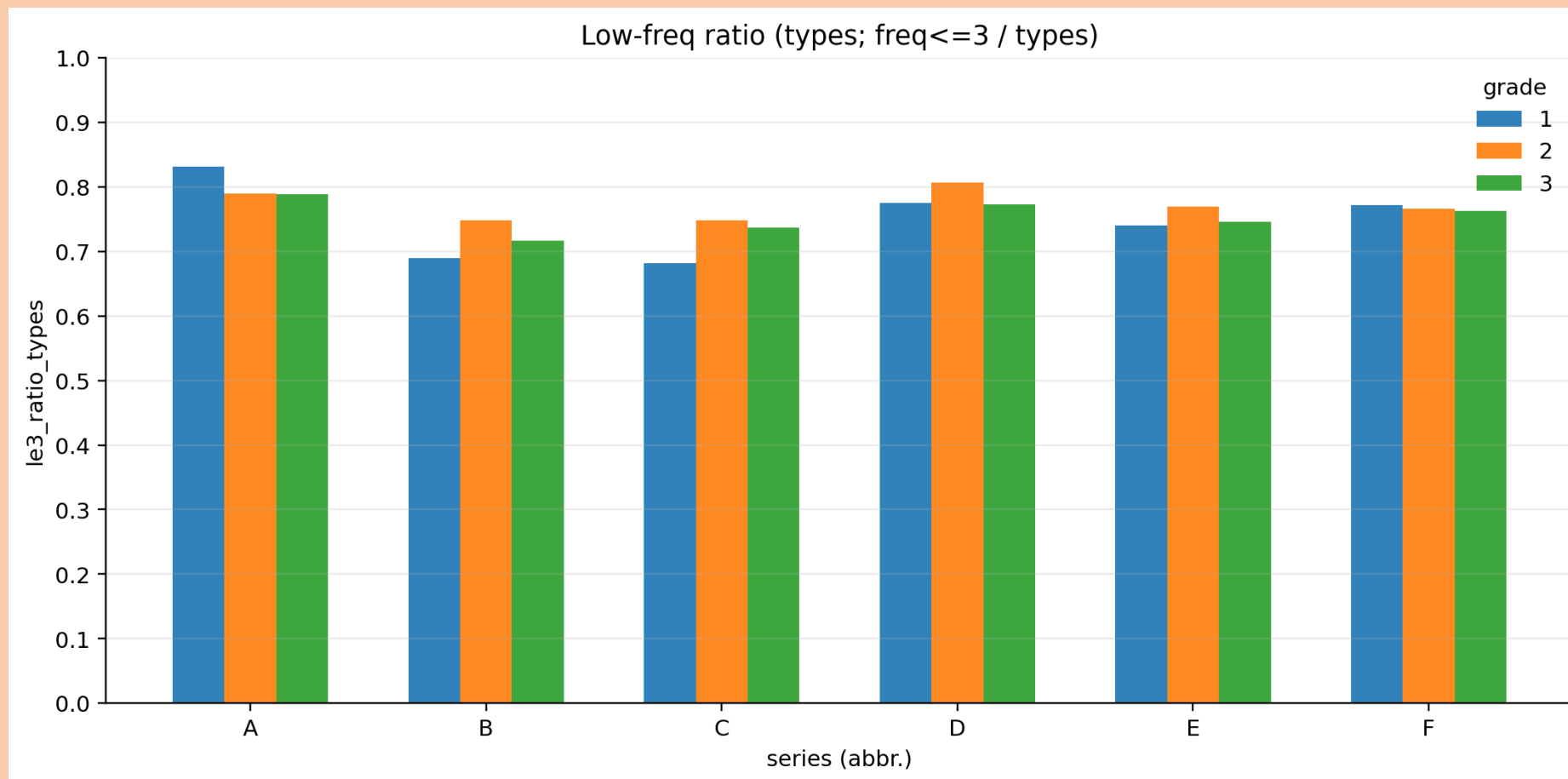
【シリーズ累積】 A社:1149, B社: 2422, C社: 2333, D社: 2042, E社: 1808, F社: 1747

高校教科書における頻度1の単語の割合



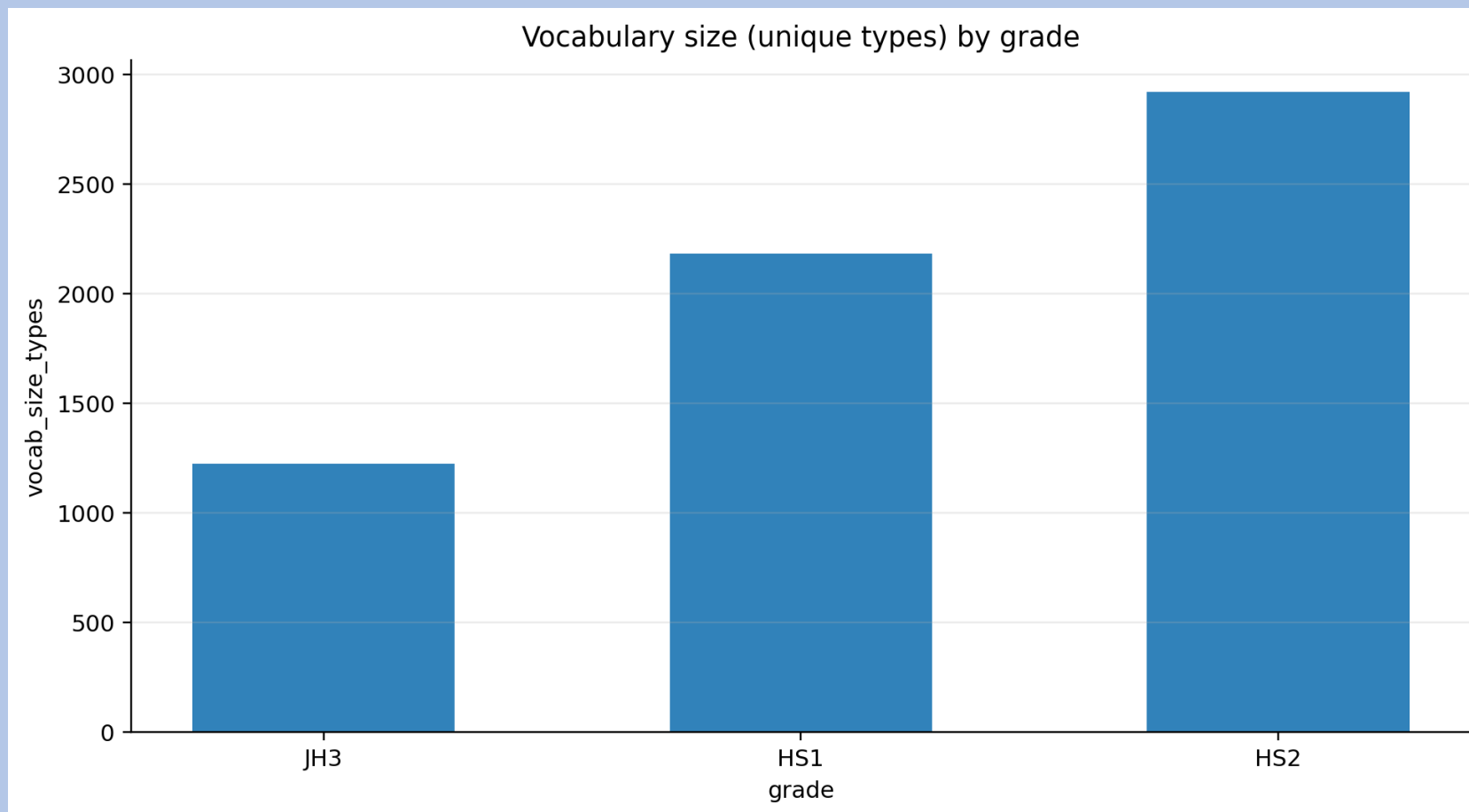
※A~Fはシリーズ名（出版社）を表す

高校教科書における低頻度単語の割合



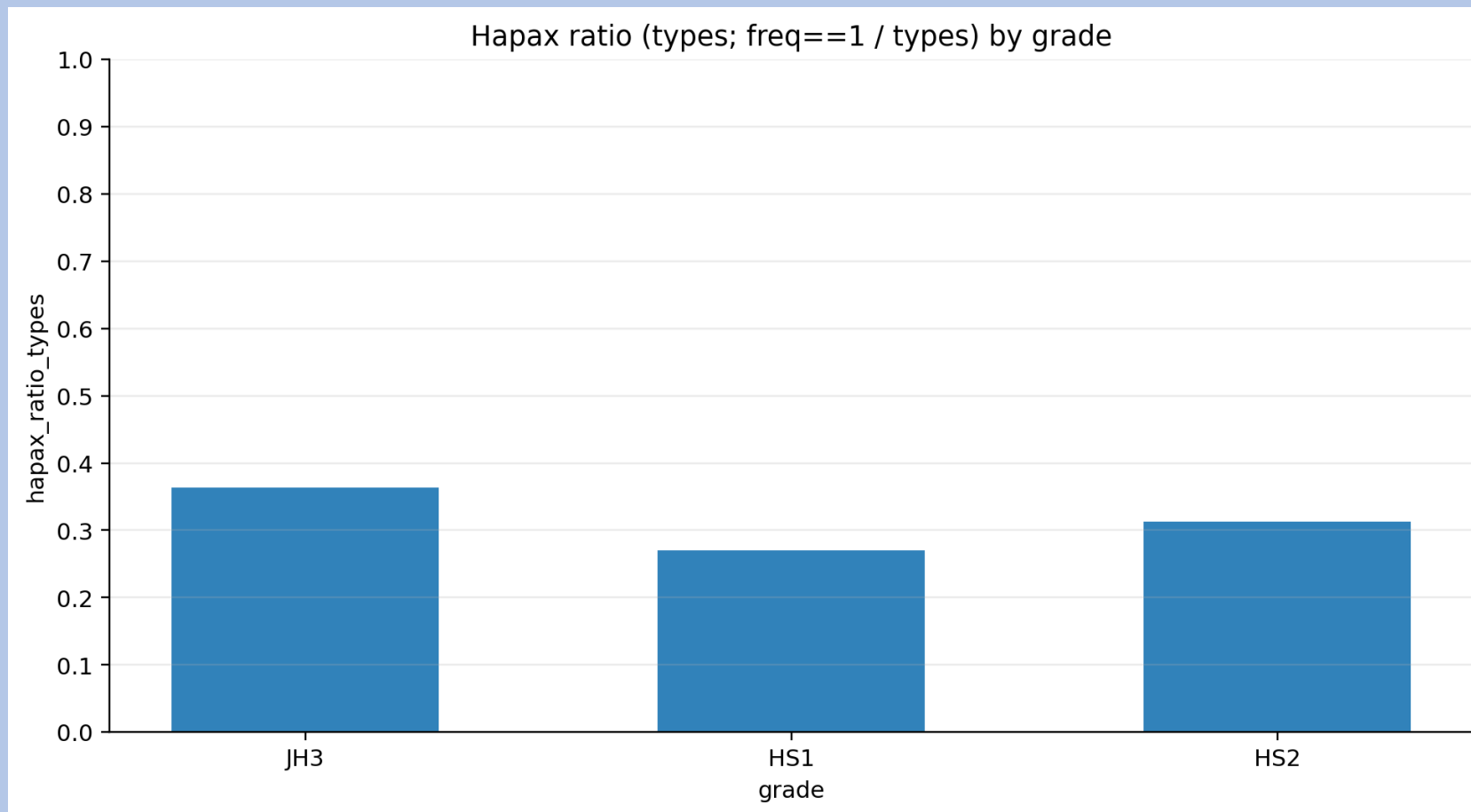
※A~Fはシリーズ名（出版社）を表す

ライティングの学年別の語彙サイズ



※それぞれの学年全体のコーパスで算出

ライティングの頻度1の単語の割合



※それぞれの学年全体のコーパスで算出

ライティングで高頻度の教科書低頻度語

【抽出条件】 **中学教科書**（6 社合算）で頻度3以下、**中学生ライティング**で頻度10以上、**CEFR-J Wordlist**で**Aレベル**の単語

cafe (A1), deep (A2), grandfather (A1),
hobby (A1), math (A1), round (A2),
skill (A1), smile (A1), society (A2), subject (A1)

まとめ

- 中学・高校ともに**頻度1の単語**の割合は**50%程度**
→**半数以上がAレベル**（A1、A2）の単語
- 中学・高校ともに**頻度3以下の単語**は**70%以上**
→発信語彙の習得のために**十分な頻度がない**と考えられる（cf. Morita et al., 2025）
→Sato (2025)では高校英語教科書によるばらつきが大きく、新出単語の頻度が学習のために十分でないことを指摘
- ライティングで頻度1の単語の割合は**約30%程度**
→**一定の単語を繰り返し使う傾向**がある
→トピックにもよるが**学習者が頻繁に使うが教科書には十分に出現しない語**がある

Morita, M., Kajiro, T., Uchida, S., Takahashi, Y., & Muto, K. (2025). More words, fewer encounters? A study of Japanese EFL textbooks. SLRF2025.

Sato, T. (2025). Vocabulary analysis of high school English textbooks: Can common vocabulary for high school students be identified? *JASELE Journal*, 36, 65–80.